

2025年度 カリキュラム科目概要

文化服装学院教務部

科コード	VR2	科名	Ⅱ部ファッション流通科 2年	単位	2 単位
科目コード		科目名	ビジュアルマーチャンダイジング	授業期間	(前期)

担当教員(代表) : 田口朋子

共同担当者 :

【授業概要、到達目標・レベル設定】

VMD(ビジュアルマーチャンダイジング)の基礎知識を学び、その目的と効果を理解する。演習を通して、店舗、売り場の演出のプランニングやディスプレイテクニックを学ぶ。 装飾展示技能検定3級レベルの習得。

【授業計画】

1. VMD概論・売場づくりの基本 【1コマ／講義・演習】
2. ストアデザイン。什器と店舗照明の種類と効果。マーチャンダイズプレゼンテーション【1コマ／講義・演習】
3. ショーイングテクニック【2コマ／実技】
ウエアリング／フォーミング／スタンディング／レイダウン／ネクタイ／チーフ／ラッピング／ピンナップ等
【2コマ／実技】
4. VMDにおけるMDとの関連性。ショーウィンドーブランディング【1コマ／講義・演習】
5. ステージディスプレイ【1コマ／グループワーク】
6. これからのVMD【1コマ／講義・演習】

授業テーマに沿った店舗リサーチやプランニング課題を実習とする。

【評価方法】

S～C・F評価 評価基準：演習、実技、課題、VMD用語理解度テスト等の学業評価 80% 授業姿勢 20%

主要教材図書 「ディスプレイ・VP・VMD」(文化服装学院編)

参考図書

その他資料 配布プリント、マネキン会社カタログ

授業の特徴と担当教員紹介

店づくりの戦略的なVMDを知り、その業務内容を学ぶ。ディスプレイの基本テクニックを学び、演出プランやステージディスプレイを行う。 ビジュアルマーチャンダイザーとしてアパレルだけでなく多業種で活動。

記載者氏名 田口朋子

2025年度 カリキュラム科目概要

文化服装学院教務部

科コード	VR2	科名	II部ファッション流通科 2年	単位	7単位
科目コード		科目名	SNS マーケティング	授業期間	(後期)

担当教員(代表) : 青柳 剛	共同担当者 : 津田 華
-----------------	--------------

【授業概要、到達目標・レベル設定】

BEAMS の企業活動や販売スタッフの実例を通じて、アパレル業界における情報発信の意義と実践を学びます。会社見学や講義で業界理解を深めたうえで、SNS 活用や顧客インサイトの読み取り、発信戦略について実践的に学習。最後に、学んだ内容をもとに情報発信の企画・制作・発表を行います。

【授業計画】

■授業タイトル : 「BEAMS 流 情報発信と顧客共創 ~アパレル業界のリアルを知る体験型プログラム~」

■期間 : 2025年9月16日~11月11日 (全7回)

■時間 : 各回 18:00~20:30

■対象 : ファッション流通科 2年生

■形式 : 講義・演習・リサーチ・グループ活動・プレゼンテーション

第1回】オリエンテーションと業界理解

テーマ : BEAMS の企業理念とアパレル業界の現状 / 方法 : 講義、アイスブレーク、質疑応答

第2回】企業インプットとリサーチ

テーマ : 店舗リサーチとオフィスツアー / 方法 : リサーチ、見学、発表準備

第3回】リサーチ結果の共有と自己分析

テーマ : リサーチ結果の発表と自己のインサイト分析 / 方法 : グループディスカッション、発表

第4回】情報発信の潮流と SNS 運営

テーマ : アパレル業界における情報発信の成功事例と SNS 運営のマナー / 方法 : 講義、グループディスカッション

第5回】接客と SNS 活用のマインドセット

テーマ : 接客に必要なマインドセットと SNS 活用 / 方法 : 講義、グループディスカッション

第6回】トークセッションとプレゼン準備

テーマ : SNS プラットフォーム別のディベートとプレゼン準備 / 方法 : ディベート、グループワーク

第7回】最終プレゼンテーションと振り返り

テーマ : 情報発信企画の発表と振り返り / 方法 : プrezentation、クロージングセッション

【評価方法】

S~C・F評価 評価基準 : 学業評価 80% 授業姿勢 20%

主要教材図書 なし

参考図書 なし

その他資料 なし

授業の特徴と担当教員紹介

■ 授業の特徴

現場スタッフを招いたリアルな情報を通じて、アパレル業界における情報発信の役割と実践力を学びます。SNS 活用の企画・制作・発表まで体験する、実践型プログラムです。

■ 担当教員紹介

ビームス カスタマーエンゲージメント本部 戦略部所属。BtoC 特化型人材育成、店舗運営管理、現場起点の学びや仕組みづくりを推進。大学との産学連携の担当およびコーディネート業務をこなす。

記載者氏名 青柳剛